

金子耕式のファミリートーク

北海道・東北・沖縄県にて好評放送中!! **その22**



■子どもの学習意欲を高めるには

今回は、成績が振るわないお子さんのことで悩んでいらつしやる親御さんたちのために、特にお話ししたいと思います。そもそも子どもは、親から「勉強しなさい」と叱られることで積極的に勉強するようになるわけではありません。「勉強しなさい」と言われれば言われるほど、むしろ勉強が嫌いになってしまうでしょう。子どもの心の中に、まず勉強しようとする意欲が湧いてこなければ、親がいくら躍起になっても無意味なことです。つまり、一番大事なことはやる気や意欲を持たせることなのです。その意欲を育てるための作戦を考えて実行することこそが親として必要なことです。

子どもというのは大人と比べたら、世の中、知らない事や未経験の事ばかりですから、それを知りたいと願う好奇心で溢れています。「なぜだろう? どうしてだろう?」という気持ちが大人よりずっと強いのです。

だから、日頃から子どもたちと交わす会話の中で、しっかりとそうした疑問に答えてあげることが大切です。

例えば、子どもと一緒に食事をしていて、子どもたちはいろいろなことを親に問いかけるでしょう。それを親が見過ぎさないで、ちゃんと耳を傾け分かりやすく答えてあげてください。もしそれが、あなたにも分からないことなら、「本やネットで調べて見て、分かったらお母さんにも教えてよ」と上手にうながしてあげるとよいでしょう。そうすることで、子どもたちの心の中に物事を知ろうとする意欲が高められていくのです。成績が振るわないお子さんには、こうしたことが何よりも必要なのです。

だから、なるべく子どもと食事をする回数を増やすことをお勧めします。食卓を囲んだ楽しい会

話の中で子どもの好奇心を刺激してやることで、学力をアップさせるためには実はもつとも効果的だからです。

実際、秋田県では何年前かにその事実が気がついて、子どもたちの学力アップのために親子が一緒に食事をするのを、県をあげて奨励するようになりましした。それが功を奏して、全国学力テストで秋田県は毎年トップの成績をキープするようになっていきます。

それに対し、塾に通っている生徒の割合は全国平均よりもずっと低いというのです。子どもたちの学力を高めたのなら、塾に通わせることよりも子どもたちのやる気を引き出すために、まずは親子が豊かな時間を共有することを考えるべきなのです。

■お孫さんにしてやれること

番組をお聞きの若いお母さんから、こんな相談をいただきました。

「実家に子どもを連れて行くと、いつもおじいちゃんおばあちゃんが甘やかして、『私のしつけは厳しすぎる』と子どもの前で言うんです。そうすると子どもは、『そうだよ、おかあさんは厳しすぎるよ。おばあちゃんの方が好き!』なんて言い出します。どうしたらいいんでしょうか?」

私はまだ孫がいらないので、孫がどれくらい可愛いか実感できませんが、きっと「目の中に入れても痛くないほどかわいい」と言わせるほど可愛いのでしょね。まあ、それはともかく、ここであえてお願いしたいのですが、お孫さんがいる前では極力、お母さんやお父さんの権威を守ってあげるように気をつけていただきたいのです。子どもをしっかりと育て導くためには、親が一定の権威を持つことがとても重要なのです。

ここで言う親の権威とは、子どもを愛情を持つ

て導き育てるための「リーダーシップ」のことで、親の権威が子どもから認められなくなってしまうと、当然のことながら子育てはうまくいかなくなります。だから、お孫さんを立派な大人に成長させてやりたいと願うなら、むしろお母さんやお父さんの権威を守る側に回って、もしもお孫さんがわがままを言ったり、いけないことしたりした時は、「ほら、お母さんにいつもなんて言われてるの。お母さんの言うとおりにしようね」などとやってバックアップしてあげることが必要です。

その上で、もし可能であれば、いつも家事や育児に追われてついイライラしがちなお母さんに代わって、おじいちゃんやおばあちゃんが、ときどきお孫さんの手を引いて、のんびり散歩に出かけたり、一緒におやつを食べながら昔話を話してあげたりしてください。それは、お孫さんのために行うべき最高のプレゼントだと思います。ぜひ、お孫さんと積極的に関わって、世代を超えて時間と感動を共有してください。

大好評
発売中

「いま子育てに必要なこと」

四六判並製本
229P 中西出版
●定価 1,365円



「家族に贈るとっておきの話」Vol.1～3

四六判変形上製本
Vol.1: 151P
Vol.2: 148P
Vol.3: 149P
●定価(各) 1,575円



ラジオ番組「金子耕式のファミリートーク」を編集したコラム集。FFJのスタッフで元アナウンサーの金子耕式が自らの子育て経験を交え、日本の現状とニーズに合わせたショートメッセージをお届けします。